

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100289	
法人名	社会福祉法人 さくら会	
事業所名	風林荘グループホーム	
所在地	山梨県甲府市宮原町1191	
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和4年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養併設のグループホームであり、開設当初より特養とほぼ同じオペレーションで業務を行ってきたが、特養でユニットケアを推進することで、本来グループホーム発祥であるユニットケアがグループホームでもより実践されるようになってきた。また食事は特養の厨房で作ったもの(同じもの)を召し上がっていただいていたが、昼食に1品グループホーム独自で作ったものを召し上がっていただくような実践が生まれてきている。  
また、同じフロアにあるショートステイの入居者・職員と積極的に交流しおやつレクなどを合同開催している。風林荘職員駐車場に隣接する荘の畑で野菜作りを行い、グループホームでの食材としても活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎コロナ禍にあっても、施設の中庭を開放して利用者が自由に外気に触れたり、また地域の方が散歩コースとして中庭を訪れ、施設が栽培する菜園を話のタネに交流が生まれるなど、自然な形で地域住民とのふれあいの場が持たれています。◎週に1度の食事レクリエーションを通して、利用者が主体となり、役割を担いながら調理に携わる日を設けています。職員は食事づくりの負担から解放されますが、その分利用者に関わりながら利用者にとっての「晴れの日」の演出に尽力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人が人として大切にされる暮らしの実現を目指します。…」という法人の理念を具体化するためのユニットの目標を設定し、日々意識しながら取り組んでいます。全ての会議の文書には、法人の理念が書かれており、常に確認しながら仕事を進めています。	グループホームをはじめとして各ユニットに、法人「さくら会」の理念を額に入れて掲示する。職員に対しては採用試験の面接に際して理念を説明し、共感した人を採用している。年に2回、理念と方針について全員参加の研修会を実施して、周知に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個別の事業所(グループホーム)独自の取り組みは、多くはありませんが、グループホームを含めた「風林荘」全体として夏まつりや地域の運動会への参加やボランティアの受け入れ等を行っています。昨年はコロナの影響下で大幅に縮小して実施しましたが、今年は中止としました。	事業所が立地している地区の自治会に加入している。コロナ禍にて日常的な付き合いは困難であったが、地区運動会や文化発表会に作品参加することができた。風林荘の前にはベンチが備えてあり、地域の方が散歩に来られてお互いに声を掛け合う間柄となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを含めた「風林荘」全体では、40数名が「認知症サポーター講座」を受講し、地域で活かせるようにしていますが、職員にとって勤務先＝地域との連携の意識はまだ薄く、地域にある事業所としての貢献は目に見えるものはなかなかありません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例えば運営推進会議でご利用者様ご家族より、このままグループホームでその時を迎えられないかという要望を受け、医師、看護師の協力関係を再構築し、医療連携と看取り対応を行うようになりました。運営推進会議に参加していただくご家族が増えました。	運営推進会議のメンバーに、他法人の管理者が入っており、お互いの情報交換と参考になるべき支援の実際に生かされている。家族の意見や要望が取り上げられ運営に反映されたことから、運営推進会議に参加される家族が増えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課経営係とは、日常的に情報提供やアドバイスをいただきながらサービスの提供を行うようにしています。グループホームとしてではありませんが、施設長が甲府市老人ホーム入所判定委員会の委員長を務めています。	市町村とは運営推進会議の報告をしたり、共通課題を持ち寄っての話し合いの場を持っている。グループホームを含めた法人事業所への新たな入居については、ショートステイ、特養との連携の中で調整がなされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束解消・事故防止委員会にて施設の事故の状況分析を行うとともに拘束を行わないケアについて話し合いを行っています。また身体拘束を行わないための全職員研修を年2回実施しています。	グループホームでは介護度や利用者の特性により、身体拘束を行う場面はない。しかし、法人として身体拘束に対するルールは明文化されている。身体拘束が必要になった場面でも、拘束しない方法を考えるためにも、事業所内に身体拘束に関わる物品は置かないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の理念そのものが高齢者の権利を擁護することそのものであり、日常的に虐待に繋がる環境の排除を目指すとともに、施設内研修において高齢者擁護に関する研修を行いながら、実践を行っています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上。年に2回以上高齢者の権利擁護と虐待防止に向けた施設内研修を実施している。管理者と計画作成者は、高齢者権利擁護等推進員の研修も受講している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程、重要事項説明書、入居契約について2時間程度の時間をかけ説明、同意を得て行っています。とりわけご家族が不安に思われている入居後の状態の変化があったときの関わりについては、都度ご家族の意思を尊重した選択肢とその援助を行うことを説明しています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に「意見・要望・苦情」の受付箱を設置していますが、日常的にはご家族に「ご要望等はありませんか？」と声掛けを行い、ケアプランや運営に反映させるよう努めています。上記の看取りケアの実施や医療連携もその結果で実現しています。	受付箱は機能されていないが、家族等の要望が運営推進会議で取り上げられている。中でも看取りケアの実施については、医療の連携、医師の配置がなされ実現につながる。家族には毎月「おたより」を送っている。親族から指摘があり、紙サイズを大きくして多くの利用者の様子を掲載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の運営に関する意見集約の場として、月1回のユニット会議及び運営会議を開催して運営に関する意見等を把握しています。また同時に産業医の先生と共に働く環境の改善を目指し安全衛生委員会を開催し、環境整備を進めています。	月に2回のリーダー会議や安全衛生会議において、職場環境の安全性についての希望が上がる。結果、産業医と委託契約を交わし、安全や衛生面について助言をいただいたり研修の場を設けるようになっていく。職員の処遇については、一人ひとりについて詳しい説明を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	物理的な環境整備等については、上記の安全衛生委員会等を通じ検討を行っていますが、個々の職員のマイタスク、マイキャリアについては、毎年個人面談を行い目標面接・育成面接を実施し、経験や取得資格等を考慮した人事考課を実施しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成は自己啓発と組織による研修等の実施で進めています。職員の知識と技術の向上のために年間18テーマ30回以上の施設内研修と適宜の外部研修への派遣を行っています。また実務者研修の研修費用の助成や介護福祉士・ケアマネ・社会福祉士の受験料補助も実施しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での地域密着サービス事業者との研究交流会の出席のほか、運営推進会議への他のグループホーム職員、管理者の出席による相互交流も実施しています。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては、相談員(管理者)、計画作成担当者、リーダーがご本人に会い、聞き取りシート及び基本情報シートに沿ってご本人の望む生活、要望等を把握し、その方の「暮らしの継続」のために何が必要かを把握します。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっての出発点は、ほとんどの場合ご本人からの要望ではなく、ご家族からの困りごととしての相談です。ご家族からみたご本人の暮らしにくさ、ご家族の困りごとです。この点をしっかり理解しまずはご家族との関係づくりを行います。そのうえでご本人にとっての生活を共に考えて行きます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちは、入居にあたり(仮)のプランという形をとりますが、聞き取りシートと基本情報・面談の結果を基に「24時間シート」を作成し、その方の「暮らしの継続」のためのケアプランを作成します。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちは、ユニットケアの考えに立ち一人ひとりの入居者の自律性を尊重しながら、暮らしの継続、今のADLの維持、向上の援助を行い、決して入居者を一方的な介護の対象とはしません。本人の意思を尊重し、必要な援助を行います。一斉介助、個のない援助は行いません。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちは、ご本人を援助される人、職員を援助する人という関係には起きません。ご本人を中心にご家族・職員・地域・行政が関わりながらご本人の暮らしにくさを支えていくという立場で関わって行くことをご家族にも理解していただいています。「お任せします」ではなく「一緒に」を実践していきます。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私たちの目指すのは、「今までの暮らしの継続」です。「24時間シート」に沿って今までの暮らし方より近い暮らし方を目指しています。住み替えによる物理的の違いには、できるだけ希望に沿うよう外出の援助や知人等の来所の呼びかけを行うようにしています。	利用者が学校の体操の先生だったことから、ホームでの体操の時間に周囲にその旨を伝えることで、中心になって動いてくれる等、利用者の過去の営みを今の生活の中に組み込んでいく支援がなされている。帰省への強い思いを抱いている利用者には月に1度の帰省の機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が新たに増える、減ることは、従来の集団の関係性に变化が出るのは当然です。ご本人の事前情報や既入居者の性格等を考慮しながら、席や居室の工夫、間に入つての会話の誘導等を行うことは当然の援助だと考えています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了は、ほとんどが他施設への入居、長期入院、死亡退居の場合です。ご家族の希望に沿って次の方向性が決まるまで援助を行っています。この間の経験では、ほとんどが当法人の特養への入居となっています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	私たちは、入居者の「暮らしの継続」をケアの理念として取り組んでいます。その為に「24時間聞き取りシート」「基本情報シート」で本人の意向等の把握に努め、「24時間シート」「ケアプラン」にて取り組みを明確にして取り組んでいます。	「ケアプラン」を作成する上で、利用者を真ん中において「基本情報シート」「24時間聞き取りシート」より意向の把握に努めている。また、利用者の意向については「24時間シート」より、変容が見られた場合は受け止め方を変え、新たな思いや意向を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私たちは、入居者の「暮らしの継続」をケアの理念として取り組んでいます。その為に「24時間聞き取りシート」「基本情報シート」で本人の意向等の把握に努め、「24時間シート」「ケアプラン」にて取り組みを明確にして取り組んでいます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私たちは、入居者の「暮らしの継続」をケアの理念として取り組んでいます。その為に「24時間聞き取りシート」「基本情報シート」で本人の意向等の把握に努め、「24時間シート」「ケアプラン」にて取り組みを明確にして取り組んでいます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記のようにして作成した「24時間シート」及び「ケアプラン」に沿って実践し、概ね3ヶ月に1度達成状況の把握及び新たな課題の抽出のため、モニタリング及び担当者会議を実施し、プランの見直しを行っています。	担当者会議を実施して3か月で見直しをしている。見直しは、24時間シートの内容の変更を担当職員が再アセスメント・モニタリングを行い、最終的にはケアマネージャーがプランを作成している。組織的かつ計画的なプロセスのもとで進められている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、個別ケア記録に行い、上記のモニタリング、担当者会議を行い課題等の共有化を行いプラン等の見直しを行っています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診等の受診援助や一時帰宅等の送迎援助等は行っているが、様々なサービスという点では柔軟には対応しきれてはいない。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の地域資源との協働は、思うほど進んでいません。地区社協のふれあいサロンや文化協会の発表会への参加や展示品出品、夏まつりへの地域住民の参加や地区運動会への参加等大きなイベントでの協力関係程度です。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には配置医による健康管理を行いながら、家族の規模による他科受診等の援助を行っています。	グループホーム入居時に、かかりつけ医を継続するか配置医にするかの選択をしてもらう。配置医は月に2回の往診があり、健康管理も手厚く行ってくれることから、配置医に変更するケースが多い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々本体施設の医務看護部の看護職員による健康管理を実施しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の援助や入院中の状態の把握、退院に向けての情報交換等病院の地域連携室と連携を図りながら進めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施していますので、入居時に「重度化の指針」及び「看取り介護の指針」を説明させていただき、入居時点での以降の把握を行っています。当然状態の変化にともなく意向の変化にも対応を行っています。	入居の際に、看取り介護についての考え方を説明し意向の確認をしている。また、看取りの状態に入った場合も、病院・在宅・施設かの意向の再確認を行い、利用者や家族の意向に対応している。看取り状態になった際でも、家族の希望があれば滞在時間を決めて、一緒に過ごす時間を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しています。また年に1度AED操作も含めた救急措置の研修や避難訓練の実施、危険予知トレーニングの研修を実施しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、暴風雪対応マニュアルを定め、火災避難訓練、風水害避難訓練、夜間想定避難訓練、及び炊き出し訓練を実施しています。また今年度より地元自治会の役員さんも訓練に参加していただいています。今後は地元消防団の方や近隣の住民の方にも参加を呼び掛ける予定です。	最新のハザードマップでは水害が危惧されている。ただホームは施設の2階に立地しているため、水害に対しては垂直非難で対応している。福祉避難所として地区全体の避難所になっている。消防団と連携して水害時の移動のあり方を模索している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私たちの理念「人が人として大切にされる暮らしの実現」の中核をなすものが「尊厳の尊重」と考えています。個別面談時でも重要な評価のポイントになっており、日常的な職員同士の相互点検も実施しています。毎年施設内研修で「接遇マナー研修」を実施しています。	個人情報として、顔や名前については建物の外・中においてどこまで開示するかを、本人や家族と確認している。個々のプライバシーについては、相談員が把握した内容を職員間で共有している。介護の場面では排泄介助の様子等が周囲の利用者に気づかれないよう細心の配慮がなされている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念でも「自律性」の尊重が重要なキーワードとなっています。24時間シートによる本人の思いや意向の把握と意向を反映した援助を進める取り組みを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	私たちが理念の実現のために取り組む手法＝ユニットケアはまさに集団処遇ではなく、「個」の援助です。時計を見て進める(＝職員の都合)ではなく、入居者一人ひとりの状況に合わせた援助を基本としています。まだまだ実践的には課題はありますが、意識は変化してきています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日何を着るのか等、基本はご本人の意向を尊重した援助を行います。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前述のように食事自体は、委託業者によって本館の厨房で作られたものを食べますが、ご飯と1品はグループホームで作って提供しています。なかなかこの仕組みでは準備等を行っていただくことができない為、食事レクレーション等で楽しんでいただくようにしています。片付け等のお手伝いをお願いします。	週に1度、配食を止めてユニットの中でメニューを決めて、食材を揃え、利用者が役割を担いながら調理する場面を設けている。糖尿や腎臓に疾病のある利用者については、管理栄養士のもとで配慮された食事が提供されている。特別な日として出前の食べられる日を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量や水分摂取量のチェックを行い、管理栄養士、看護師が定期的に評価を行っています。が、一律に数値を評価するのではなく、普段からのご本人の摂取量等を考慮しながら援助の内容を検討しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの援助を行っています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの生活サイクル、パターンを24時間シートで把握し、その方に合った援助を行うようにしています。まだまだ自立に向けた取り組みにまでは至っていませんが、一斉介助のような状況はなくなっています。	排泄を拒否する利用者には、無理強いせずに1～3か月のスパンで普段の関わりを大切に、トイレへの意識づけを大切にしている。失敗した場合はさりげなく交換することを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・水分摂取を基本に一人ひとりの状態を把握し、看護師とも協働し援助を行うようにしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく一人ひとりの意向に合うよう取り組んでいますが、職員の出勤シフトの関係もあり、夜間入浴の対応はできていません。現状では、夜間の入浴の希望は把握していません。	入浴を拒否される利用者には、足シャワーやお湯に触れたり職員との関わりを通して、少しずつ入浴への動機付けにつなげている。また、入浴日を特定せずに、入りたくなければ翌日に入浴できるよう臨機応変な対応をしている。同性介助に固執される利用者には、他のユニットから職員の応援を得て対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **風林荘グループホーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペース・リズムに合わせた24時間シートに沿って援助を行っています。日中の活動性を高めよって、良眠が得られるよう援助を心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本情報や薬状書によって内服の確認を行っています。全員が薬の目的や副作用について理解しているかは不安があります。一人ひとりのIADL(管理能力)によって、服薬の援助の方法を変えて支援を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なかなか役割を持った生活を送っていただくことはできませんが、洗濯物たたみやおしぼりたたみ、配膳、下膳のお手伝い等をお願いします。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一時帰宅等の希望には、送迎の援助と共に応えるようにしています。戸外へ出かける援助は、季節にもよりますがいちご狩り、お花見等や外食レクリエーションなどを組み合わせ月に1~2回は行っています。外出時の家族の同行や、地域の方々との交流は、前述の運動会や文化祭程度です。	コロナ禍前までは外食レクリエーションが月に1~2回実施していたができなくなった。しかし、桜やいちご、アジサイ、紅葉の時期にはTPOを見計らって、継続的に実施している。施設の敷地内のグリーンゾーンでは自由に行動しており、スタンプラリー等趣向を凝らしたイベントを実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には高額のお金の所持は遠慮いただいています。ご本人のIADL(金銭管理能力)を考慮し、お買い物の際には、預かり金より出金するようにしています。ご本人が高額のお金を持ってほしいという場合には、ご家族の了解を得ながら持っていたくようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙は、自由にいただいています。なかなか手紙のやり取りができるよう、手紙を書くお手伝いまではできていません。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、構造上のこともあり必ずしも快適な空間とはなっていません。床も単調な色使いの素材となっており、グレアによる影響も可能性としてあります。トイレの数も少なく、使用時間が長い方や頻回の方が占拠してしまい他の入居者のストレスになっている場面も見られます。なるべく植物を飾る等の工夫を行い、居心地の良い環境づくりに心がけています。	皆の共用スペースには季節の飾り物が施されている。ハード面については、利用者の安全と消防を考えると難しい課題となっている。しかし、屋上に出るまでのスロープ化、屋上に花のプランターを置くことを考えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関わりや個々の方の性格を考慮し、テーブルやソファの配置を変える工夫を行っています。とりわけ、背中側(後ろ)に人の気配を感じなくて済むような配置にも配慮を行うようにしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居時にはベッドと洋筆タンスのみ備付けで、それ以外はご本人・ご家族が自由に持ち込んでいただくようにしています。入居前にユニットケアの考え方をご家族にお伝えし、今までの住まいのお部屋を再現していただくお願いをしていますが、なかなか実行していただけません。	居室に、入居前から使用していた思い出の備品を持ち込んでもらうようにしているが、家族間の考え方や思いから実現していないとのこと。ただ中には連れ合いの遺影を持ち込んでいる方や、女性の利用者の中には洗面所に化粧品を備えている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの入居者のADL、IADL、認知能力等を考慮し、援助を行っています。事故を全く無くすることはできていません。畳の部屋を作ったり、起き上がりセンサーや人感センサー等による見守りを行いながら、行動制限を行わない形で援助を行うようにしています。			